

## 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和5年度分)

＜県の評価等＞

施設所管部名： 農林水産部

### 1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重びよクエの森(三重県民の森) (三重郡菟野町大字千草字西貝石 7181-3)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菟野町千草 3927-1)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 2 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他県民の森の管理上必要と認める業務

### 2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、外来植物の除去や間伐を行うなど、森林環境の適正な管理に努めている。
2 施設の利用状況	A	B			年間施設利用者数は 159,503 人で、令和4年度実績を下回ったものの、目標達成率は 119.9%となり、参加者のニーズを反映したイベントの実施等により利用者数の確保に努めている。
3 成果目標及びその実績	A	B			施設利用者の満足度は 89.5%(目標 80%)、自然体験型イベント参加者の満足度は 95.9%(目標 92%)となり、ともに目標を達成している。

※「評価の項目」の県の評価：

- 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。  
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。  
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 成果目標については、年間の施設利用者数、施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度の全ての指標で目標を達成しているが、いずれも令和4年度実績を下回った。</li> <li>② 森林、植栽木、芝生等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適正に実施しており、利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。</li> <li>③ 利用者のために、インターネットによる広報や利用受付を行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するなど情報発信を積極的に行っている。</li> <li>④ イベントについては、感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、105 回(このうち自然体験型イベントは 92 回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は 95.9%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。</li> <li>⑤ 「みえ森林教育ステーション」では、安全・安心な利用に向けた運営に努めている。</li> <li>⑥ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等の取組を行っており、生物多様性の確保に努めている。また、桑名高校、四日市西高校の生徒が取り組む「フクロウ保護プロジェクト」にも引き続き協力している。</li> </ol>
--------	---

- |  |   |
|--|---|
|  | <p>⑦ 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を三重県民の森管理事務所に常勤として3名、非常勤として3名配置している。また、危機管理に関して、マニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。</p> <p>⑧ 利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和5年度においても全ての目標を達成し、森林、環境学習のための利用者の増加や、より良いサービスの提供につなげている。今後も引き続き、利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。</p> |
|--|---|

## <指定管理者の評価・報告書(令和5年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

### 1 管理業務の実施状況及び利用状況

#### (1)管理業務の実施状況

##### ①三重県民の森管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県民の森」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに利用者の増加に努め、以下の事業を行った。

##### ア) 県民の森の施設及び設備の利用に関する業務

- ・ 園内各施設の団体利用に関しては、窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報、受付も行い、事前に施設の情報提供や利用案内の提供を行った。また、利用者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、利用者へのサービスに努めた。
- ・ 感染症対策として、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。
- ・ 菰野町教育委員会へは、毎週3回、子供たちへの情操教育の場として園内を提供した。また、「森の風ようちえん」との共催で、2、3歳児とその親を対象とする野外保育事業「小さな森のようちえん」を毎週1回、園内を含むフィールドで実施した。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では、小さな子を持つ家族でも安全安心に利用できるような運営に努めた。また、従来の展示の鑑賞を目的とした利用者混乱がないよう、広報、案内に努めた。

##### イ) 自然体験型のイベントの実施に関する業務

- ・ 感染症対策を徹底した上で、105回のイベント(このうち自然体験型イベントは92回)を実施した。また、イベント参加者の満足度は全イベントで96.1%、自然体験型イベントで95.9%となり、令和4年度とほぼ同水準となった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、ほぼコロナ禍前の条件でイベントを開催出来たことが要因と考えられる。イベントの実施回数は令和4年度より多く行うとともに、申込者が多いイベントは出来る限り午前、午後の2回開催出来るように調整した。
- ・ 職員によるイベントを多数実施するとともに、「星空観望会」、「春の草木染め体験」など、より専門的な知識が必要なイベントは、外部講師や団体と協力して実施した。月1回定例で行った「季節の自然観察会」では、令和4年度と同様に三重県環境学習情報センター、自然観察指導員三重連絡会と共催し、自然観察指導員が自然環境や動植物の説明を参加者に行い、交流する場を提供することができた。
- ・ 地域の小学校、保育園、幼稚園、学童、福祉団体などの依頼により、クラフト体験や自然観察会などのプログラムを実施した。
- ・ シイタケの菌打ち体験プログラムの中で、菌打ちに使用するコナラの細木の間伐を行い、森づくりの一端を体験することで、里山と人との関わりの重要性を直に感じられる企画を実施した。
- ・ 「森林とふれあう自然公園環境整備事業」により、イベント参加者とともにふれあいの館のウッドデッキを補修した。

##### ウ) 県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・ モバイル端末でも見やすくしたウェブサイトを通じて、より広報力のある情報発信を心掛けるとともに、タイムリーに情報を提供できるSNSを利用し、イベント報告や開花状況、自然の様子などの情報提供を行った。ウェブサイトとSNSをあわせて248回の更新を行った。Facebookでの評価となる「いいね!」の数は2,568件となった。
- ・ CTY-FM「よっかいちかふえ」での毎月のイベント告知や、子育て情報誌「みえこども新聞」へのコラム掲載など、広報のためにメディアを積極的に利用した。太陽の丘のササユリ、つどいの広場のフウの紅葉などはマスコミに取り上げられ、多くの人が訪れた。
- ・ イベント参加者やウェブサイトからの希望者に対して、イベント情報を中心とするメールマガジンを月1~2回程度配信した。令和5年度は21回配信を行い、登録アドレスは1,677件と増加した。
- ・ 自然学習展示館にて季節の自然の見所を紹介する掲示を行うとともに、ウォーキングマップを2ヶ月ごとに更新し、利用者が現地に行って自然を楽しめるよう案内を行った。

## ②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・ 植物管理、清掃管理、日常点検、遊具・建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常個所の早期発見により、利用者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・ 植栽木の管理については、適正な時期に剪定を行い良好な景観を維持することができた。森林内の植生管理については、大径木の枯損木が多くなっているため、危険のないよう早めに伐倒処理を行った。また、植栽木から繁殖し自生の植生を圧迫している外来植物を間引き、森林環境の回復、保全に努めた。生産の森においては、「認定特定非営利活動法人森林の風」に委託して間伐を行い、適正な人工林の維持に努めた。ビオトープのトンボ池周辺は、生物多様性の観点から一部草原を残した。
- ・ 建設から40年以上を経ているため、多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕する必要がある箇所が増加すると思われる。専門的な技術が必要となるアスレチック遊具の修繕については業者委託し、各所の階段や看板など大規模でない修繕は職員で行った。8月の豪雨では遊歩道Cコースの一部が崩壊したことにより通行止めとしたが、速やかに復旧作業を行った。
- ・ 今後補修が必要な個所として、未補修のアスレチック遊具、遊歩道の階段や手すり、藤棚、あさけの流れにかかる橋などがある。老朽化が進んでいるため、危険がないか注視し、必要に応じて供用中止などの措置を行う。
- ・ 資格を持つ職員により有害鳥獣駆除を行い、シカ3頭を駆除した。

## ③県施策への配慮に関する業務

- ・ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護・調査や外来生物の駆除などを行い、生物多様性が保全された森林公園をめざした。桑名高校、四日市西高校の生物部の生徒が取り組む「フクロウ保護プロジェクト」にも引き続き協力し、園内に設置した巣箱からは4羽のフクロウを巣立たせることができた。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では県産材でできた遊具や木のおもちゃの提供とともに、季節の自然に合わせた展示を行い、楽しみながら森林や木に親んでもらえる運営を行った。
- ・ 3月には三重県「岡田文化財団プレゼンツ さくらプロジェクト」が開催され、ジンダイアケボノを30本植えた。悪天候の中ではあったが、卒業シーズンでの開催で記念に応募された30組のご家族に非常に好評であった。

## ④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 「三重県民の森の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。  
令和5年度請求件数:0件

## ⑤その他の業務

- ・ 令和5年度における事故・事件は、11月につどいの広場のトイレ水栓器具盗難の1件のみとなった。

## (2)施設の利用状況

公園施設全体の利用者数	成果目標	令和4年度実績	令和5年度実績	達成率
	133,000人	183,139人	159,503人	119.9%
顧客満足度	成果目標	令和4年度実績	令和5年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	89.6%	89.5%	111.9%
② 自然体験型イベント参加者	92%	96.2%	95.9%	104.2%

## 2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所で利用料金を徴収している箇所はなし。

### 3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R4	R5		R4	R5
指定管理料	24,108,000	24,108,000	事業費	2,646,394	3,157,262
利用料金収入	0	0	管理費	22,721,949	21,925,269
その他の収入	1,309,534	1,281,360	その他の支出	0	0
合計 (a)	25,417,534	25,389,360	合計 (b)	25,368,343	25,082,531
収支差額 (a)-(b)	49,191	306,829			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

### 4 成果目標とその実績

	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	133,000 人	80%	92%
成果目標に対する実績	159,503 人	89.5%	95.9%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者数について 過去最高の利用者数となった令和4年度より 1 割強減少した結果となった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され人出がコロナ禍以前に戻りつつあるなか、例年人出の多い初夏や秋の行楽シーズンには広場などでテントを張って遊ぶ多くの利用者の姿が見られ、屋外での活動のニーズが高いことがうかがえる。当公園が利用したくなる公園として選ばれているのは、普段の管理運営によるものと考え。今後も施設の適切な維持管理や環境の美化に努めるとともに、「みえ森林教育ステーション」の利用者が施設利用者数の増加に影響することから、情報発信を積極的に行っていく。</li> <li>・施設利用者の満足度について 自然管理については満足度が高く、森林部分においては自生の植生を保護し、公園部分については植栽木を適切に管理するなど、良好な景観の維持に努めた結果だと考える。一方、施設管理については満足度が低い傾向が見られ、施設の老朽化などが影響していると考えられるため、今後も補修、改修を進めていきたい。</li> <li>・イベントについて 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ほぼコロナ禍以前のイベント実施回数を維持し、多くの利用者に自然体験を楽しんでいただくことができた。自然体験については、観察会の依頼や、参加者数の増加など、ニーズが高まっている様子がうかがえる。今後もさまざまな形で自然体験を提供していく。 5月に行った「オニヤンマの羽化を見てみよう」は予約不要で、現地に来た人にスタッフが随時ガイドを行うという形式だった。一斉に集合しないことで、人が集中することなく多くの人に自然を体験してもらうことができ、こうした現地での自然ガイド形式によるイベントも今後検討していきたい。 また、月1回の定例で行った「季節の自然観察会」や「星空観察会」は、毎月参加するというリピーターもいるほど、定期的に公園を訪れるファン層を増やすことにつながっている。今後も引き続きこうした定例イベントを開催していく。</li> </ul>		

	<p>・自然環境について</p> <p>園内の植栽木管理については、アスレチック周辺で頭上を覆う木々を伐採するなど適正な明るさを確保するとともに、森林管理については、外来の植物を間引くなど本来の自然植生を維持する森林管理を行った。今後も、希少な動植物の保護管理活動を継続し、減少の著しいトンボ類の復活のため、トンボ池の池干し等を行い外来種の駆除を行うことで在来生物の増加に努め、希少植物のキンランのマーキング調査を実施するとともに、高校生が取り組む「フクロウの保護プロジェクト」に引き続き協力していく。</p> <p>・セルフガイドの充実</p> <p>利用者が散策しながら自ら自然のことを学ぶセルフガイドシステムの効果的な運用に努める。季節で変化する公園の見所に合わせ、自然の美しさや面白さ、不思議さに気づききっかけとなるような内容とする。また、ウォークラリーの開催のほか、公園を楽しむツールとして、物品の貸出なども検討を行う。</p> <p>・ボランティアについて</p> <p>ボランティアグループである「モリメイト」では、自然観察グループを立ち上げたことで、自然観察の記録やボランティアガイドの実施など、活動の幅が広がった。親子連れや若者層など幅広い年代の方が新規加入することにより、活動が活性化された。今後も楽しみながら公園の管理につながる活動を行っていく。また、「モリメイト」で維持管理する「モリメイトの森」の区画を新たに設定し、管理を専門に行うボランティアの募集を行う。</p>
--	--

## 5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常個所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	B	年間利用者数は、令和4年度実績を下回ったものの、目標を上回る 119.9% (159,503 人)となった。
3 成果目標及びその実績	A	B	施設満足度、自然体験型イベントの満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価：  
「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。  
「B」→ 業務計画を順調に実施している。  
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。  
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：  
「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。  
「B」→ 当初の目標を達成している。  
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。  
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>施設利用者数は令和4年度実績を1割強下回り、コロナ禍以前の水準に戻った。今後は自然体験型イベントについて、開催数は現状を維持し内容を新たに考えていきたい。また依然として野外で活動する傾向は高いと思われることから、自然や森林に親しめる場所として活用してもらえるように取り組む。</p> <p>「みえ森林教育ステーション」については、SNSによる情報の拡散により、より若い世代の親子連れの利用が多く、新しい公園利用の可能性があると考える。安全安心に利用してもらえるような運営に取り組むとともに、県民の森の魅力である広々とした森林など既存の施設と組み合わせることで、乳幼児から小・中・高生まで効果的な森林教育や体験が可能なプログラムやキットの開発につなげ、将来の森林関係に携わる人材育成を行っていく。</p>
--------	--